

発表番号 22

「ニホンジカ簡易影響チェックシートによる被害影響調査について」

関東森林管理局 計画保全部 計画課
森林生態系係 山下 綾香

1 課題を取り上げた背景

近年、関東森林管理局管内の多くの森林において、ニホンジカの食害による後継樹や林床植生の消失等が急増し、健全な森林生態系の維持が危ぶまれる状況になっています。このような中で、これまで署等においても人工林を主体に食害防止柵の設置等のニホンジカ被害防止 対策を実施していますが、貴重な森林生態系を 有する保護林等の天然林については、ニホンジカ被害に関するデータが少なく、現況を必ずしも十分に把握できていない状況にあります。

このため、ニホンジカ影響簡易チェックシートを作成し、管内の森林事務所等において、被害調査を実施し、被害データを分析、図化しましたので報告します。(図1)

(図1) チェックシート

2 具体的な取組

チェックシートは、現地での情報をダイレクトに伝えることを目的とした様式とし、

- ・ 広い対象範囲で、ニホンジカによる被害発生状況がわかる。
- ・ 被害発生状況は、立木だけでなく自然植生についても把握できる。
- ・ ニホンジカの捕獲が、植生への影響を解消しているのかを検証できる。

・ 被害発生状況を同じ様式で、局管内国有林において全域的に集めることで、データの共有化が容易となり、担当者以外も被害の発生状況を知ることができる。

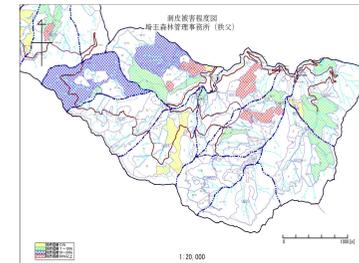
・ 新しい剥皮の発生場所が全体的にわかり、最新のニホンジカの動向が把握できる。等の利点があり、森林官等が現地確認や調査等に赴く際に剥皮や下層植生の摂食等 5 分程度で記入でき、調査に労力がかからないのが特徴です。

3 取組の結果

被害調査データの入力にあたっては、チェックシートの内容を入力しやすいように、ほとんどの項目について、ドロップダウンリスト等を設定し、リストから選択入力出来るようにしました。

チェックシートを入力し終わったら、結果一覧表シートヘデータを呼び込み、国有林GISを活用し、図化しました。

全管内の被害状況の内、埼玉所秩父森林事務所管内の被害状況について、分析を行った結果、植物の影響(剥皮の程度・有無、シカ道、シカ糞等複数のデータを組合せたとこ、稜線に多く被害が発生していること等の傾向が見られました。(図2) 剥皮の程度(秩父森林事務所)



4 まとめ

チェックシートによる被害影響調査については、今年度初めての取組でもあり、今後多くのデータ収集に努め、調査技術向上のための研修会や現地検討会、ニホンジカ被害対策講演会等を引き続き開催し、民国連携した取組みに発展したいと考えています。